

35 金髪姫

(スイスの昔ばなし)

「小さなお嬢さん、あなたはもうじき風の中を飛んでいって、雨と雪の中を帰ってくるでしょう。」
 王様にいただいたスープに塩をぶちまけられた上、杖を火にくべられたおばあさんは、
 スープを飲み干し給仕に礼を言った後に、いたずらな姫に言いました。
 するとどうでしょう。次の日から、金髪姫は体が風で飛ぶほど軽くなってしまいました。
 姫は、病気が治らぬまま、青白い美しい王女に成長しました。そうとは知らずに王子様は姫に恋しました。
 ある日、城を出た姫は、風に飛ばされ、はるか遠くの不思議な城まで飛ばされてしまいました。
 そこは、あのおばあさんの城で、食事として出されるスープは、塩と胡椒が入ったひどいものでした。
 姫は、生きるためにスープを飲み、少しずつ重みを取り戻しました。そして、自分の罪を知りました。
 半年以上たって、ことを知った王子様は、お姫様を必死の思いで探し出し雨と雪の中を帰ってきました。
 心の重さを知ったお姫様は、2度と悪いいたずらをしませんでした。

いたずら好きな姫は、軽くなって飛ばされました。

ローム君の新・博物日記 第35話

世界昔ばなしを科学する

このシリーズは、半導体技術で世界に貢献するロームがお届けしています。おなじみの世界の昔ばなしの中から毎回テーマを一つとりあげ、そこに隠れているいろいろな不思議を科学の視点で見つめます。さて、今回のおはなしは…

お知らせ

バックナンバーは、ロームの文化支援のサイトでご覧いただけます。
www.rohm.co.jpへアクセス

●スイスの山奥に伝わる美しい話です。

この昔ばなしは、スイスの山岳地帯に暮らす少数民族に伝わる昔ばなしで、現地の人々には大変ポピュラーな話だとか。山深い地域で伝統を守り、他の言語と明らかに違う独自に発達した言葉で語り伝えられてきたためか、昔ばなしも独特で、『金髪姫』のように体が軽くなって飛ばされる昔ばなしは、世界でも大変めずらしいそうです。ちなみにこの言葉は、ごく少数ながらスイスの南東部で今も使われています。独特とはいうものの、この民族には他にも日本人が共感しやすい、美しく冒険に富んだ話が数多く伝わっています。そして、この『金髪姫』にも、世界のあらゆる昔ばなしに共通している大きなテーマが見られます。それは「弱者への親切と、それを犯した者へは罰がくだされる」ということ。確かに金髪姫は、親切の重さを身をもって知りましたね。

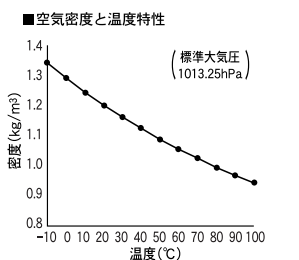
●大空への夢を最初に叶えたのは？

『金髪姫』では、空を飛ぶ場面がとても印象的です。古くはギリシャ神話でも、イカロスが蠟で着けた鳥の羽根で空を飛んだ話が有名ですね。自然から学んできた人類は、鳥を真似て大空へ挑戦してきました。しかし、「鳥のように羽ばたく」という発想から抜け出さなければ、飛行機の実現からは遠かったのです。18世紀後半、それとは全く違う方法で、空を飛ぶ夢を初めに叶えたのは気球でした。フランスのモンゴルフィエ兄弟の熱気球は、焚き火や暖炉の煙が

勢いよく上っていく様子をヒントにしたのです。ちなみに、熱気球に操縦桿はありません。行きたい方向に吹く風を気球の上下でとらえるのです。風まかせて飛んだ金髪姫も、気球で飛んでいるような感覚だったのかも知れませんね。

●空に浮かぶのは、簡単なこと？

そもそも気球は、なぜ空中に浮かぶのでしょうか。「押しのけた水の重さは、浮力になる」というアルキメデスの原理は、空気にも当てはまります。つまり、押しのけた空気の重さが浮力になるのです。空気は、意外と重く1リットルの空気が約1.2gと1円玉よりも重いのです。例えば、面積100m²のマンションの空気の量を考えてみると、天井高2.5mで中の空気の量は100×2.5=250m³となります。この重さは、1.2g×250m³×1000倍=300kg(1m³=1000リットル)。空気は、想像するよりずっと重いんですね。熱気球では、熱して軽くなった空気で、回りの空気を押し上げます。その温度の差の分だけ気球は軽くなり、人を乗せても浮くことができるのです。でも、人への思いやりを知らない姫の心は、気球が要らないくらい軽かったということでしょうか。



昔ばなし監修/昔ばなし研究所所長 小澤俊夫
取材協力/大阪府立大学大学院教授 大久保博志